

# 伊丹福音ルーテル教会 顕現後第七主日礼拝のしおり

## 2022年2月20日

### 前奏

#### **招きのことば：詩編 37 編 1-6、39-40 節**

悪事を謀る者のことであら立つな。不正を行う者をうらやむな。

彼らは草のように瞬く間に枯れる。青草のようにすぐにしおれる。主に信頼し、善を行え。

この地に住み着き、信仰を糧とせよ。

主に自らをゆだねよ 主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい あなたの正しさを光のように

あなたのための裁きを 真昼の光のように輝かせてくださる。/

主に従う人の救いは主のもとから来る。

災いがふりかかるとき砦となってくださる方のもとから。主は彼を助け、逃れさせてくださる。

主に逆らう者から逃れさせてくださる。

主を避けどころとする人を、主は救ってくださる。

#### **罪の悔い改めと赦しのことば**

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### **使徒信条**

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは自分によくしてくれる人を大切に、愛してくれるひとを大切にします。しかし、敵対する人や、陰で悪口を言っているような人をなかなか愛することができません。イエス様は敵を愛し、見返りを期待せずに与えつくすお方です。私たちもイエス様に愛されています。どうぞイエス様、私の罪を赦して、心を作り変えてください。敵をも愛する人に変えてください。新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

### 使徒書朗読：第1コリント 15章 35-38, 42-50節

しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者がいるかもしれませんが。愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。神は、御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。…死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。最初の人土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。

### 福音書朗読：ルカによる福音書 6章 27-38節

「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしろ。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。

い。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるろうか。罪人でも同じことをしている。返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあるろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである。」

### **讚美歌 399 番**

- 1 悩む者よ、とく立ちて、恵みの座に 来たれや ※**天の力に 癒しえぬ 悲しみは地にあらじ。**
2. **幸なき身の 慰めや、悔める身の 望みや ※**
3. 見よ、いのちのましみずの 御座より湧き出ずるを ※ **アーメン**

### **説教：「敵を愛し、親切にしなさい」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

先週に続いてイエス様の平地でのお話が続きます。先週は、貧しい者は幸いです、というお話でした。貧しい者よりも、豊かなものが幸いというのが常識ですが、イエス様は違いました。今、豊かで、満腹していて、今、笑っていて、ほめられていて、まるで神様がいなくても済むような生き方をしていないか、ということを探られました。イエス様は貧しくなり、私たちのところに来てくださいました。しかし、神様がいなくても済むような生き方をしている人々に殺されました。人々はイエス様を殺した、とっていました。イエス様は殺されてくださったのです。イエス様は神様がいなくても済むと思っている罪びとにくだる死の裁きを、ご自分のいのちをお与えくださることで身代わりに受けてくださいました。このようなイエス様を信じて、罪赦されて新しいいのちをいただいて、私たちは神の子として歩ませてください。

さて今日は、敵を愛しなさい、というみ言葉です。イエス様は、お話を聞いているみんなの人々に言われました。あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に親切にし、悪口を言うものに祝福を祈り、侮辱する者のために祈りなさい、と言われました。イエス様はそのように、人はこのようにしたら幸せに生きることができる、ということをおっしゃっています。

敵を愛するとは美しいことですね。イエス様はなんと気高い、常識を超えた愛を私たちに語っておられるのでしょうか。人々が互いに赦しあい、和解をするなら、幸せな毎日が訪れるでしょう。そのように生きることができたら憎しみが止まります。誰かが間違っただけで悪意をもって攻撃をしても、被害を受けた人が敵を赦して反撃をしないならば、そこで報復の連鎖は止まります。誰かに悪口をいわれても、そんな風に言わなければ自分を保てない人がいるのだ、と赦して、むしろ祝福を祈っていきましょう、というようになったら、恨みや憎しみから解放された幸せが来るでしょう。確かにイエス様は、人はこのようにしたら幸せに生きることができる、という秩序をおっしゃっています。赦しあい、愛し合っていくことができれば、世界の平和をめざして、お互いの絆をたしかめて、みんなで豊かで平安な社会をつくっていくことができます。結局イエス様が言っておられることは、31節にあるように、あなたは自分にしてもらいたいことを人にもしなさい、ということにつきまします。36節では、あなたがたの父なる神様が隣り深いのですから、あなたがたも隣り深い者となりなさい、とおっしゃいました。

でも現実はどうでしょうか。私たちは自分に敵対する人は決して愛せません。自分を憎んでいるとわかっている人には親切にできません。自分の陰口や悪口を言う人には、祝福のことばをかけたりにできません。やられたらやりかえす、ということが延々と続くと、戦いに発展します。このような恨みや憎しみのエネルギーは代々受け継がれます。身の回りの人間関係のこじれから、国と国の争いまで、報復が戦いの背景です。やられたらやりかえす、ということが延々と続くと、戦いに発展します。このような恨みや憎しみのエネルギーは代々受け継がれます。

イエス様の言葉はまだ続きます。一方の頬をなぐられたら、反対の頬を向けるように、上着を奪うものには下着も与えるように、と言われます。奪う人から取り返そうとせず、求める人には惜しみなく与えていきなさい、と言われます。人を裁くな、人を罪びとだと決めつけるな、人を赦しなさい、人に与えなさい、と続きます。人にしたようにあなたもしてもらおうことになります。けれども、そんなことは私たちにはできないのではないのでしょうか。きよい神様の御前では私たちには敵を愛することなどできません。私たちは罪深い自己中心な者です。

私たち、神様より自分を愛する罪びとにとって、敵を愛するということは現実にはできません。しかし問題はそれだけではないように思います。敵を愛すると正義や真理が保たれないという心配もあるのではないのでしょうか。世の中にはどんなに親切にされても反省しない人、調子よくいつまでも人の善意を利用する人、攻撃をやめない人もいます。そんな人から目を付けられ、被害を受け続けても仕返しをせず、何度殴られてももう一方の頬を向けていくようなお人よしのことでは腹の虫がおさまりません。敵を愛していくと、この世にあっては全てを奪われてし

まいそうです。人々のわがままがまかり通るままにするのは、よくないのではないのでしょうか。いじめは赦さず、懲罰や報復をもってしても、なくさなければならぬのではないのでしょうか。おごり高ぶりをもって人々を辱め続ける人が我が物顔で世の中にのさばらないように、人を傷つける行為には妥協なく厳しく対応をするべきではないのでしょうか。そして正しい代償をはらわせなければならぬ。そうすると胸がすっきりします。敵を愛すると、悪が調子に乗って、なされるがままにすべて奪われてしまいます。

では、そのように妥協なく敵を愛するようにおっしゃったイエス様ご自身の歩みはどうだったのでしょうか。今日の箇所が続くルカによる福音書を読み進めてみますと、あるときイエス様のお弟子たちが、自分たちのうちでだれが一番偉いのか、と議論していました。イエス様はことばを挟んで、世の中では王が民を支配し、民の上で権力をふる者が偉い人と思われているけれども、あなたがたの間では一番若い人のように、仕える者のようにになりなさい、と言われました。エルサレムで弟子のユダに裏切られて兵隊たちに取り囲まれたとき、弟子のある者が大祭司の手下に剣で切り付けて彼の右耳を切り落としてしまいましたが、イエス様はその耳を癒して、十分です、やめなさい、と言われました。抵抗しないで、兵士たちにたくさんの暴行を受け、ののしられてから、最高法院で不当な裁判を受け、総督ピラトやヘロデ王のもとに連れていかれて様々な尋問を受けましたが、反論をしませんでした。そこに正義はありませんでした。あざけられ、侮辱され、十字架を負わされ、ついには十字架につけられました。民も、指導者たちも、総督も王も、誰もイエス様の罪を指摘できませんでしたが、イエス様がたたく歩まれたので自分たちの立場が悪くなることを恐れ、十字架刑に処しました。

民は指導者を恐れ、指導者は民の心が離れることを恐れ、イエス様を殺すことで一致しました。イエス様は肉体的に苦しめられました。殴られ、鞭うたれ、重い十字架を背負わされ、はりつけにされました。精神的にも苦しめられました。ありもしない悪口を言われ、不当な裁判を受け、服をはぎ取られからかわれ、さげすまれ、辱めを受け、お前なんか死んでしまえ、と言われました。そして霊的にも、父なる神様から見捨てられるという大きな苦しみを受けました。

そして十字架の上で苦しみにあえぎながら、イエス様は自分を十字架につけた人たちのために、父なる神様に祈りました。父よ、彼らを赦してあげてください。彼らは自分で何をしているのかわからずにいます。と言われました。最後まで、敵を愛し、悪口を言うものに祝福を祈り、侮辱するもののために祈り、頬を打つ者にもう一方の頬をむけました。上着を奪うものに下着も与え、持ち物を奪うものから取り返そうとしませんでした。敵を愛し、いのちを与えました。世の中では敵を愛すると敵に殺されます。イエス様は敵を愛して、恥と呪いの十字架にかけられてすべてを奪われ、死なれたのです。

人の世は罪でけがされています。私たち自身に敵を愛する気持ちは出てきませんが、世の中の人々にも敵を愛する気持ちは出てきません。そのような現実の中で、イエス様は敵を愛しなさい、と教えられ、そして敵を愛したためにご自分のすべてを奪われてしまいました。

ルカによる福音書の最後のところで、十字架にかけられて死なれたイエス様がよみがえって、お弟子たちにあらわれています。お弟子たちは死んだはずのイエス様が目の前におられるので、恐れおののいて亡霊を見ていると思いました。しかしイエス様は聖書のことばを語り聞かせながら彼らの心の目をひらきました。イエス様が十字架で死なれた意味が、このときお弟子たちにわかったのです。イエス様は救い主です。聖書には救い主は苦しみを受けて三日目に死者の中からよみがえると書いてあります。イエス様は救い主として人々に捨てられてすべてを奪われました。それは敵を愛せない私や世界の人々の罪をイエス様が身に引き受けて死んでくださったということだったのです。十字架の上で、父よ、彼らの罪を赦してください、といわれたのは、敵を愛して自分を殺す敵の赦しを祈っていただけではなく、そこで死なれることで、自分を殺す敵を含む私たちすべての人々のための罪の赦しを完成してくださったのです。十字架の死は救い主として人々の罪を赦すためだったと知りました。

弟子たちは十字架で苦しまれ、三日目によみがえられたイエス様に遣わされて、罪の赦しを得させる悔い改めをエルサレムからはじめてあらゆる国の人々に向けて宣べ伝えました。敵を愛して、苦しみをいとわず罪の赦しのメッセージを与え続けました。イエス様のことについて無理解で、無関心な世界の人々のところにすすんで出て行って、イエス様のことを語りました。敵対視され、迫害され、侮辱され、すべてを奪われても、そのような苦しみを受けてくださったイエス様が罪の赦しを完成してくださったことは大きな励ましでした。ルカによる福音書を書いたルカは、あとで使徒言行録を書いて、世界に出ていったお弟子たちの苦勞と喜びを記しています。

今日、私たちは、敵を愛するように言われています。そんなことは自己中心な私たちにはできません。また、そんなことをすると自分のすべてを奪われてしまうかもしれません。恐ろしいことです。けれどもイエス様は、敵を愛することのできない恐れが多いあなたの罪を赦すために苦しんでくださり、そのためすべてを奪われてくださいました。あなたのために死んでくださったとき、父よ、この人の罪を赦してください、と祈ってくださいました。

この一週間、利害の対立する人々を愛し、悪口を言う人に神様の祝福を祈り、侮辱する人のために祈りましょう。イエス様に赦されたので、自分を苦しめる人を赦します。赦しの連鎖が始まります。罪深い人々の思い通りに利用されて、打撃を受けることになるかもしれません。イエス様はそんなとき、彼らを赦す心をあなたの内にも整えてくださいます。

「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」ルカ 6:36

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

**讚美歌 249 番 献金 献金感謝の祈り**

1. われ罪びとの かしらなれども、主は我がために 生命(いのち)を捨てて  
つきぬいのちを 与えたまえり
2. 天(あま)つ御国(みくに)の 民とならしめ、幹に連なる小枝のごとく、  
ただ主によりて 活かしたまえり
3. 妙にもとうとき み慈しみや、求め知らず 過ぎしうちに、  
主はまずわれを 認めたまえり
4. 思えばおもえばかかる 罪びと われを 探し求めて 救いたまいし  
主のみ恵みは 限りなきかな **アーメン**

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏